

死亡事例集計結果

1) 死亡した子どもの年齢・性別

- 平成19年1月から平成20年3月までの15か月間に厚生労働省が把握した虐待により死亡した子どもの事例は、心中以外的事例が73例（78人）、心中事例が42例（64人）であった。平成19年1月から12月までの1年間では、心中以外的事例が57例（61人）、心中事例が33例（52人）であり、第4次報告（平成18年1月から12月）と比較すると、心中以外的事例では5例（0人）の増加、心中による事例では15例（13人）の減少であった。

表1-1 死亡事例数及び人数

区分	平成18年1月から平成18年12月まで			平成19年1月から平成20年3月まで		
	心中以外	心中 (未遂を含む)	計	心中以外	心中 (未遂を含む)	計
例数	52	48	100	73	42	115
人数	61	65	126	78	64	142

内訳（再掲）

区分	平成19年1月から平成19年12月まで			平成20年1月から平成20年3月まで		
	心中以外	心中 (未遂を含む)	計	心中以外	心中 (未遂を含む)	計
例数	57	33	90	16	9	25
人数	61	52	113	17	12	29

- 性別は、心中以外的事例では、男が50人（64.1%）、女が28人（35.9%）で、平成18年と比べて男の割合が8.4ポイント高かった。心中事例では、男が32人（50.0%）、女が32人（50.0%）であり、男女の割合は等しかった。心中以外的事例及び心中事例のいずれも平成18年と比べて男の割合が増加した。

表1-2 死亡した子どもの性別

区分	平成18年1月から平成18年12月まで					平成19年1月から平成20年3月まで				
	心中以外		心中 (未遂を含む)		計	心中以外		心中 (未遂を含む)		計
	人数	構成割合	人数	構成割合		人数	構成割合	人数	構成割合	
男	34	55.7%	32	49.2%	66	50	64.1%	32	50.0%	82
女	27	44.3%	33	50.8%	60	28	35.9%	32	50.0%	60
計	61	100%	65	100%	126	78	100%	64	100%	142

○ 死亡した子どもの年齢は、心中以外の事例では、0歳が37人（47.4%）、1歳が11人（14.1%）、2歳が6人（7.7%）、3歳が9人（11.5%）であり、0歳が半数近くとなっていた。また、3歳以下が63人（80.8%）を占め、平成18年と比べて7.0ポイント高くなっており、例年と同様に低年齢に集中していた。

心中事例では、有効割合で見ると、0歳が9人（14.3%）、1歳が3人（4.8%）、2歳が5人（7.9%）、3歳が5人（7.9%）であり、3歳以下が22人（34.9%）を占めていた。

表1-3 死亡した子どもの年齢

年次 年齢	平成18年1月から12月						平成19年1月から平成20年3月							
	心中以外			心中(未遂を含む)			心中以外			心中(未遂を含む)				
	人数	構成割合	累計構成割合	人数	構成割合	累計構成割合	人数	構成割合	累計構成割合	人数	構成割合	有効割合	累計有効割合	
0歳	20	32.8%	32.8%	7	10.8%	10.8%	37	47.4%	47.4%	9	14.1%	14.3%	14.3%	
1歳	7	11.5%	44.3%	4	6.2%	16.9%	11	14.1%	61.5%	3	4.7%	4.8%	19.0%	
2歳	5	8.2%	52.5%	8	12.3%	29.2%	6	7.7%	69.2%	5	7.8%	7.9%	27.0%	
3歳	13	21.3%	73.8%	5	7.7%	36.9%	9	11.5%	80.8%	5	7.8%	7.9%	34.9%	
4歳	7	11.5%	85.2%	4	6.2%	43.1%	3	3.8%	84.6%	3	4.7%	4.8%	39.7%	
5歳	2	3.3%	88.5%	7	10.8%	53.8%	3	3.8%	88.5%	8	12.5%	12.7%	52.4%	
6歳	1	1.6%	90.2%	6	9.2%	63.1%	1	1.3%	89.7%	6	9.4%	9.5%	61.9%	
7歳	2	3.3%	93.4%	2	3.1%	66.2%	2	2.6%	92.3%	5	7.8%	7.9%	69.8%	
8歳	-	-	-	4	6.2%	72.3%	1	1.3%	93.6%	3	4.7%	4.8%	74.6%	
9歳	1	1.6%	95.1%	6	9.2%	81.5%	-	-	-	4	6.3%	6.3%	81.0%	
10歳	1	1.6%	96.7%	3	4.6%	86.2%	1	1.3%	94.9%	4	6.3%	6.3%	87.3%	
11歳	1	1.6%	98.4%	2	3.1%	89.2%	1	1.3%	96.2%	2	3.1%	3.2%	90.5%	
12歳	-	-	-	4	6.2%	95.4%	-	-	-	-	-	-	-	
13歳	-	-	-	-	-	-	1	1.3%	97.4%	3	4.7%	4.8%	95.2%	
14歳	-	-	-	2	3.1%	98.5%	-	-	-	2	3.1%	3.2%	98.4%	
15歳	-	-	-	1	1.5%	100%	-	-	-	-	-	-	-	
16歳	-	-	-	-	-	-	2	2.6%	100%	1	1.6%	1.6%	100%	
17歳	1	1.6%	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
小計	61	100%	100%	65	100%	100%	78	100%	100%	63	98.4%	100%	100%	
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.6%			
計	61	100%	100%	65	100%	100%	78	100%	100%	64	100%			

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。また、構成割合、有効割合の和がそれぞれ累積構成割合、累積有効割合と合わない場合がある。

2) 虐待を行った者の状況等

- **主な虐待の種類**は、心中以外の事例では、「身体的虐待」が52人（66.7%）、「ネグレクト」が26人（33.3%）で、「身体的虐待」が半数以上を占めており、この傾向は変わらなかった。また、平成18年と比べると「身体的虐待」の割合が増加し、「ネグレクト」の割合が減少した。

表2-1 主な虐待の種類

区分	平成18年1月から12月			平成19年1月から平成20年3月	
	心中以外			心中以外	
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合
身体的虐待	35	57.4%	60.3%	52	66.7%
ネグレクト	23	37.7%	39.7%	26	33.3%
小計	58	95.1%	100%	78	100%
不明	3	4.9%		-	-
計	61	100%		78	100%

- **確認された虐待の種類**では、心中以外の事例は、「身体的虐待」が56人（71.8%）、「ネグレクト」が33人（42.3%）、「心理的虐待」が6人（7.7%）で、「性的虐待」は0人であった。

表2-2 確認された虐待の種類

区分	心中以外	
	人数	構成割合
身体的虐待	56	71.8%
ネグレクト	33	42.3%
心理的虐待	6	7.7%
性的虐待	-	-

注) 構成割合は、心中以外の事例78人に対する割合である。

○ **直接死因**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「頭部外傷」が17人（24.3%）と最も多く、次いで「頸部絞扼以外による窒息」が14人（20.0%）、「火災による熱傷・一酸化炭素中毒」が9人（12.9%）、「頸部絞扼による窒息」が8人（11.4%）であった。また、「低栄養による衰弱」は5人（7.1%）であった。

心中事例では、「頸部絞扼による窒息」、「火災による熱傷・一酸化炭素中毒」がそれぞれ13人（22.4%）と最も多く、次いで「溺水」が9人（15.5%）であった。

表2-3 直接死因

区分	平成18年1月から12月						平成19年1月から平成20年3月					
	心中以外			心中(未遂を含む)			心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
頭部外傷	12	19.7%	21.8%	2	3.1%	3.4%	17	21.8%	24.3%	3	4.7%	5.2%
胸部外傷	1	1.6%	1.8%	1	1.5%	1.7%	—	—	—	1	1.6%	1.7%
腹部外傷	—	—	—	—	—	—	3	3.8%	4.3%	1	1.6%	1.7%
外傷性ショック	1	1.6%	1.8%	—	—	—	2	2.6%	2.9%	—	—	—
頸部絞扼による窒息	7	11.5%	12.7%	27	41.5%	46.6%	8	10.3%	11.4%	13	20.3%	22.4%
頸部絞扼以外による窒息	6	9.8%	10.9%	1	1.5%	1.7%	14	17.9%	20.0%	3	4.7%	5.2%
溺水	5	8.2%	9.1%	4	6.2%	6.9%	3	3.8%	4.3%	9	14.1%	15.5%
熱傷	1	1.6%	1.8%	—	—	—	1	1.3%	1.4%	—	—	—
車内放置による熱中症・脱水	2	3.3%	3.6%	—	—	—	2	2.6%	2.9%	—	—	—
中毒(火災によるものを除く)	—	—	—	18	27.7%	31.0%	—	—	—	3	4.7%	5.2%
出血性ショック	—	—	—	1	1.5%	1.7%	—	—	—	5	7.8%	8.6%
低栄養による衰弱	3	4.9%	5.5%	—	—	—	5	6.4%	7.1%	—	—	—
凍死	1	1.6%	1.8%	—	—	—	—	—	—	—	—	—
火災による熱傷・一酸化炭素中毒	11	18.0%	20.0%	2	3.1%	3.4%	9	11.5%	12.9%	13	20.3%	22.4%
病死	2	3.3%	3.6%	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	3	4.9%	5.5%	2	3.1%	3.4%	6	7.7%	8.6%	7	10.9%	12.1%
内訳(再掲)	全身打撲	—	—	—	1	1.5%	1.7%	—	—	—	—	—
	薬物による死亡	—	—	—	1	1.5%	1.7%	—	—	—	—	—
	結腸壊死	1	1.6%	1.8%	—	—	—	—	—	—	—	—
	頭部顔面を含む全身打撲	1	1.6%	1.8%	—	—	—	—	—	—	—	—
	頭部外傷	1	1.6%	1.8%	—	—	—	—	—	—	—	—
	高所から投げ落とす	—	—	—	—	—	—	1	1.3%	—	2	3.1%
	急性硬膜下血腫	—	—	—	—	—	—	1	1.3%	—	—	—
	低酸素血症(ロープが首に絡まったため)	—	—	—	—	—	—	1	1.3%	—	—	—
	揺さぶられ症候群による頭蓋内出血	—	—	—	—	—	—	1	1.3%	—	—	—
	低体温症	—	—	—	—	—	—	1	1.3%	—	—	—
	トイレで出産後遺棄	—	—	—	—	—	—	1	1.3%	—	—	—
	電車に轢かれる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.6%
	拳銃で殺害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.6%
	未記入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	4.7%
	小計	55	90.2%	100%	58	89.2%	100%	70	89.7%	100%	58	90.6%
不明	6	9.8%		7	10.8%		8	10.3%		6	9.4%	
計	61	100%		65	100%		78	100%		64	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- 主たる加害者は、心中以外の事例では、「実母」が38人（48.7%）、「実父」が16人（20.5%）、「実父母」が10人（12.8%）、「母の交際相手」が8人（10.3%）であった。心中事例では、「実母」が42人（65.6%）、「実父」が12人（18.8%）、「実父母」が4人（6.3%）であり、「実母」が約7割を占めていた。

表2-4 主たる加害者

区分	平成18年1月から12月						平成19年1月から平成20年3月				
	心中以外			心中(未遂を含む)			心中以外		心中(未遂を含む)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	人数	構成割合	
実母	29	47.5%	50.9%	46	70.8%	73.0%	38	48.7%	42	65.6%	
実父	5	8.2%	8.8%	13	20.0%	20.6%	16	20.5%	12	18.8%	
継母	1	1.6%	1.8%	-	-	-	-	-	-	-	
継父	1	1.6%	1.8%	-	-	-	2	2.6%	-	-	
養母	1	1.6%	1.8%	-	-	-	-	-	-	-	
養父	-	-	-	-	-	-	1	1.3%	1	1.6%	
母方祖母	1	1.6%	1.8%	1	1.5%	1.6%	1	1.3%	1	1.6%	
母方祖父	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.6%	
母の交際相手	5	8.2%	8.8%	-	-	-	8	10.3%	-	-	
実母と	実父	9	14.8%	15.8%	3	4.6%	4.8%	10	12.8%	4	6.3%
	養父	1	1.6%	1.8%	-	-	-	-	-	-	
	母の交際相手	3	4.9%	5.3%	-	-	-	1	1.3%	-	
	母の交際相手とその友人	-	-	-	-	-	-	1	1.3%	-	
	母方祖母	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4.7%
その他(叔父)	1	1.6%	1.8%	-	-	-	-	-	-	-	
小計	57	93.4%	100%	63	96.9%	100%	78	100%	64	100%	
不明	4	6.6%		2	3.1%		-	-	-	-	
計	61	100%		65	100%		78	100%	64	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **加害の動機**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「保護を怠ったことによる死亡」、「泣きやまないことにいらだったため」がそれぞれ13人（24.1%）で最も多く、次いで「しつけのつもり」が9人（16.7%）、「精神症状による行為（妄想などによる）」が7人（13.0%）であった。

表2-5 加害の動機

区分	心中以外			心中(未遂を含む)	
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合
心中	-	-	-	64	100%
しつけのつもり	9	11.5%	16.7%	-	-
子どもがなつかない	1	1.3%	1.9%	-	-
パートナーへの怒りを子どもに向ける	1	1.3%	1.9%	-	-
慢性の疾患や障害の苦しみから子どもを救おうという主観的意図	2	2.6%	3.7%	-	-
精神症状による行為(妄想などによる)	7	9.0%	13.0%	-	-
保護を怠ったことによる死亡	13	16.7%	24.1%	-	-
子どもの存在の拒否・否定	6	7.7%	11.1%	-	-
泣きやまないことにいらだったため	13	16.7%	24.1%	-	-
その他	2	2.6%	3.7%	-	-
小計	54	69.2%	100%	64	100%
不明	24	30.8%		-	-
計	78	100%		64	100%

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

3) 死亡した子どもに関する事項

- **妊娠期・周産期の問題**は、心中以外の事例では、「若年(10代)妊娠」が12人(15.4%)、「望まない妊娠/計画していない妊娠」、「母子健康手帳の未発行」がそれぞれ11人(14.1%)、「妊婦健診未受診」が10人(12.8%)であった。

表3-1 妊娠期・周産期の問題

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数(構成割合/78人)			人数(構成割合/64人)		
	あり	なし	未記入・不明	あり	なし	未記入・不明
切迫流産・切迫早産	1 (1.3%)	23 (29.5%)	54 (69.2%)	2 (3.1%)	11 (17.2%)	51 (79.7%)
妊娠高血圧症候群	2 (2.6%)	20 (25.6%)	56 (71.8%)	-	7 (10.9%)	57 (89.1%)
喫煙の常習	3 (3.8%)	14 (17.9%)	61 (78.2%)	1 (1.6%)	6 (9.4%)	57 (89.1%)
アルコールの常習	2 (2.6%)	15 (19.2%)	61 (78.2%)	-	7 (10.9%)	57 (89.1%)
マタニティブルー	-	11 (14.1%)	67 (85.9%)	1 (1.6%)	8 (12.5%)	55 (85.9%)
望まない妊娠/計画していない妊娠	11 (14.1%)	11 (14.1%)	56 (71.8%)	-	10 (15.6%)	54 (84.4%)
若年(10代)妊娠	12 (15.4%)	31 (39.7%)	35 (44.9%)	-	25 (39.1%)	39 (60.9%)
母子健康手帳の未発行	11 (14.1%)	29 (37.2%)	38 (48.7%)	-	16 (25.0%)	48 (75.0%)
妊婦健診未受診	10 (12.8%)	20 (25.6%)	48 (61.5%)	-	11 (17.2%)	53 (82.8%)
胎児虐待	2 (2.6%)	16 (20.5%)	60 (76.9%)	-	9 (14.1%)	55 (85.9%)
墜落分娩	5 (6.4%)	25 (32.1%)	48 (61.5%)	-	13 (20.3%)	51 (79.7%)
陣痛が微弱であった	1 (1.3%)	15 (19.2%)	62 (79.5%)	-	8 (12.5%)	56 (87.5%)
帝王切開	8 (10.3%)	24 (30.8%)	46 (59.0%)	2 (3.1%)	11 (17.2%)	51 (79.7%)
低体重	6 (7.7%)	25 (32.1%)	47 (60.3%)	3 (4.7%)	16 (25.0%)	45 (70.3%)
多胎	1 (1.3%)	38 (48.7%)	39 (50.0%)	2 (3.1%)	25 (39.1%)	37 (57.8%)
新生児仮死	-	29 (37.2%)	49 (62.8%)	-	16 (25.0%)	48 (75.0%)
その他の疾患・障害	2 (2.6%)	26 (33.3%)	50 (64.1%)	-	15 (23.4%)	49 (76.6%)
出生時の退院の遅れによる母子分離	3 (3.8%)	30 (38.5%)	45 (57.7%)	-	14 (21.9%)	50 (78.1%)
NICU入院	3 (3.8%)	31 (39.7%)	44 (56.4%)	-	15 (23.4%)	49 (76.6%)

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **子どもの疾患・障害等**は、心中以外の事例では、「身体疾患・障害」が6人(7.7%)、「身体発育の遅れ」が4人(5.1%)であった。
 心中事例では、「身体疾患・障害」が3人(4.7%)であった。

表3-2 子どもの疾患・障害等

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	人数(構成割合/78人)			人数(構成割合/64人)		
	あり	なし	未記入・不明	あり	なし	未記入・不明
身体疾患・障害	6 (7.7%)	26 (33.3%)	46 (59.0%)	3 (4.7%)	18 (28.1%)	43 (67.2%)
知的発達の遅れ	-	24 (30.8%)	54 (69.2%)	-	26 (40.6%)	38 (59.4%)
身体発育の遅れ(極端な痩せ、身長が低いなど)	4 (5.1%)	30 (38.5%)	44 (56.4%)	1 (1.6%)	26 (40.6%)	37 (57.8%)

- 情緒・行動上の問題(複数回答)は、心中以外の事例では、「なし」が17人(21.8%)、「ミルクの飲みムラ」が4人(5.1%)であった。

表3-3 情緒・行動上の問題(複数回答)

区分	心中以外(78人)		心中(未遂を含む)(64人)	
	人数	構成割合	人数	構成割合
なし	17	21.8%	17	26.6%
ミルクの飲みムラ	4	5.1%	-	-
激しい泣き	2	2.6%	1	1.6%
夜泣き	3	3.8%	1	1.6%
食事の拒否	3	3.8%	-	-
夜尿	2	2.6%	-	-
多動	2	2.6%	-	-
かんしゃく	2	2.6%	-	-
性器いじり	1	1.3%	-	-
指示に従わない	2	2.6%	-	-
なつかない	3	3.8%	-	-
無表情、表情が乏しい	2	2.6%	-	-
固まってしまう	1	1.3%	-	-
盗癖	1	1.3%	-	-
不登校	-	-	2	3.1%
その他	3	3.8%	-	-
不明	46	59.0%	44	68.8%

- 乳幼児健診未受診の状況(複数回答)をみると、心中以外の事例では、「3～4か月健診」で3人(11.5%)、「1歳6か月健診」で3人(17.6%)、「3歳児健診」で2人(22.2%)が未受診と確認され、年齢が上がるに従ってその割合は増加しているが、平成18年と比べると未受診の割合は減少した。

心中事例では、「3～4か月健診」で2人(11.1%)、「1歳6か月健診」で0人、「3歳児健診」で2人(18.2%)が未受診と確認された。

- 予防接種未接種の状況(複数回答)をみると、心中以外の事例では、「BCG・ツベルクリン」で2人(10.0%)、「ポリオ」で3人(15.8%)、「三種混合」で4人(25.0%)、「麻疹」で3人(27.3%)、「風疹」で3人(27.3%)が未接種であった。

心中事例では、「BCG・ツベルクリン」で0人、「ポリオ」で3人(18.8%)、「三種混合」で3人(18.8%)、「麻疹」で2人(13.3%)、「風疹」で2人(13.3%)が未接種であった。

表3-4 乳幼児健診および予防接種(複数回答)

区分	心中以外				心中(未遂を含む)			
	人数(有効割合)				人数(有効割合)			
	受診済み	未受診	年齢的に非該当	不明	受診済み	未受診	年齢的に非該当	不明
3～4か月健診	23 (88.5%)	3 (11.5%)	24	28	16 (88.9%)	2 (11.1%)	5	41
1歳6か月健診	14 (82.4%)	3 (17.6%)	42	19	14 (100%)	0 -	11	39
3歳児健診	7 (77.8%)	2 (22.2%)	49	20	9 (81.8%)	2 (18.2%)	17	36
BCG・ツベルクリン	18 (90.0%)	2 (10.0%)	22	36	17 (100%)	0 -	4	43
ポリオ予防接種	16 (84.2%)	3 (15.8%)	23	36	13 (81.3%)	3 (18.8%)	4	44
三種混合予防接種	12 (75.0%)	4 (25.0%)	23	39	13 (81.3%)	3 (18.8%)	4	44
麻疹予防接種	8 (72.7%)	3 (27.3%)	31	36	13 (86.7%)	2 (13.3%)	8	41
風疹予防接種	8 (72.7%)	3 (27.3%)	31	36	13 (86.7%)	2 (13.3%)	8	41

注) 本表における有効割合は「受診済み」人数と「未受診」人数の合計に対する「受診済み」、「未受診」の割合である。

○ **養育機関への所属等**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「なし」が48人（71.6%）を占め、「保育所」は6人（9.0%）、「幼稚園」、「小学校」はそれぞれ4人（6.0%）であった。

心中事例では、「なし」が12人（21.4%）を占め、「小学校」が21人（37.5%）、「保育所」が13人（23.2%）、中学校が5人（8.9%）であった。

表3-5 養育機関への所属等

区分	心中以外(78人)			心中(未遂を含む)(64人)		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
なし	48	61.5%	71.6%	12	18.8%	21.4%
保育所	6	7.7%	9.0%	13	20.3%	23.2%
幼稚園	4	5.1%	6.0%	4	6.3%	7.1%
小学校	4	5.1%	6.0%	21	32.8%	37.5%
中学校	1	1.3%	1.5%	5	7.8%	8.9%
高校	2	2.6%	3.0%	1	1.6%	1.8%
その他	2	2.6%	3.0%	—	—	—
小計	67	85.9%	100%	56	87.5%	100%
不明	11	14.1%		8	12.5%	
計	78	100%		64	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

4) 養育環境などについて

- **養育者の状況(家族形態)**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「実父母」が37例(57.8%)と最も多く、次いで「一人親(離婚)」、「一人親(未婚)」がそれぞれ9例(14.1%)、「内縁関係」が5例(7.8%)であった。

心中事例では、「実父母」が29例(80.6%)と最も多く、次いで「一人親(離婚)」が4例(11.1%)であった。

表4-1 養育者の状況(家族形態)

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
実父母	37	50.7%	57.8%	29	69.0%	80.6%
一人親(離婚)	9	12.3%	14.1%	4	9.5%	11.1%
一人親(未婚)	9	12.3%	14.1%	-	-	-
連れ子の再婚	4	5.5%	6.3%	1	2.4%	2.8%
内縁関係	5	6.8%	7.8%	-	-	-
その他	-	-	-	2	4.8%	5.6%
小計	64	87.7%	100%	36	85.7%	100%
不明	9	12.3%		6	14.3%	
計	73	100%		42	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **実母・実父以外の同居者(重複あり)**は、心中以外の事例では、「母方祖父母同居」が6例(8.2%)と最も多く、次いで「母方祖母同居」が5例(6.8%)、「母方祖父同居」、「母の交際相手」がそれぞれ4例(5.5%)であった。

表4-2 実母・実父以外の同居者(重複あり)

区分	心中以外(73例)		心中(未遂を含む)(42例)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
母方祖母同居	5	6.8%	2	4.8%
母方祖父同居	4	5.5%	1	2.4%
母方祖父母同居	6	8.2%	4	9.5%
父方祖母同居	1	1.4%	2	4.8%
父方祖父同居	1	1.4%	-	-
父方祖父母同居	1	1.4%	4	9.5%
母の交際相手	4	5.5%	-	-
母の友人	1	1.4%	-	-
父の友人	1	1.4%	-	-
いない	32	43.8%	22	52.4%
その他	3	4.1%	-	-
不明	14	19.2%	7	16.7%

- **本児死亡時の実母・実父の年齢**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、実母の年齢は、「20歳～24歳」、「25歳～29歳」がそれぞれ17例（23.9%）と最も多く、次いで「30歳～34歳」が13例（18.3%）であった。実父の年齢は、「30歳～34歳」の16例（34.8%）が最も多く、次いで「25歳～29歳」の10例（21.7%）であった。

心中事例では、実母の年齢は「30歳～34歳」が15例（36.6%）、実父の年齢は「40歳以上」が10例（31.3%）と、最も占める割合が高かった。

表4-3 本児死亡時の実母・実父の年齢

区分	心中以外						心中(未遂を含む)					
	実母			実父			実母			実父		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
19歳以下	8	11.0%	11.3%	3	4.1%	6.5%	-	-	-	-	-	-
20歳～24歳	17	23.3%	23.9%	5	6.8%	10.9%	1	2.4%	2.4%	-	-	-
25歳～29歳	17	23.3%	23.9%	10	13.7%	21.7%	7	16.7%	17.1%	4	9.5%	12.5%
30歳～34歳	13	17.8%	18.3%	16	21.9%	34.8%	15	35.7%	36.6%	9	21.4%	28.1%
35歳～39歳	9	12.3%	12.7%	9	12.3%	19.6%	10	23.8%	24.4%	9	21.4%	28.1%
40歳以上	7	9.6%	9.9%	3	4.1%	6.5%	8	19.0%	19.5%	10	23.8%	31.3%
小計	71	97.3%	100%	46	63.0%	100%	41	97.6%	100%	32	76.2%	100%
不明	2	2.7%		27	37.0%		1	2.4%		10	23.8%	
計	73	100%		73	100%		42	100%		42	100%	

注) 実父の不明には、離婚等による把握が困難な者等も含む。

構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **家計を支えている主たる者**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「実父」は25例（53.2%）、「実母」が9例（19.1%）であった。

心中事例では、「実父」が20例（71.4%）で7割以上を占めていた。「実母」は4例（14.3%）であった。

表4-4 家計を支えている主たる者

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
実母	9	12.3%	19.1%	4	9.5%	14.3%
実父	25	34.2%	53.2%	20	47.6%	71.4%
実母と実父	-	-	-	1	2.4%	3.6%
養父	1	1.4%	2.1%	-	-	-
母方祖母	3	4.1%	6.4%	-	-	-
母方祖父	5	6.8%	10.6%	2	4.8%	7.1%
父方祖母	-	-	-	1	2.4%	3.6%
母の交際相手	2	2.7%	4.3%	-	-	-
その他	2	2.7%	4.3%	-	-	-
小計	47	64.4%	100%	28	66.7%	100%
不明	26	35.6%		14	33.3%	
計	73	100%		42	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **住宅の状況**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「集合住宅（賃貸）」が26例（49.1%）と最も多く、次いで「一戸建て（持ち家）」が12例（22.6%）であった。心中事例では、「集合住宅（賃貸）」が11例（47.8%）、「一戸建て（持ち家）」が10例（43.5%）であった。

表4-5 住宅の状況

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
一戸建て(持ち家)	12	16.4%	22.6%	10	23.8%	43.5%
一戸建て(賃貸)	4	5.5%	7.5%	-	-	-
集合住宅(所有)	3	4.1%	5.7%	2	4.8%	8.7%
集合住宅(賃貸)	26	35.6%	49.1%	11	26.2%	47.8%
公営住宅	6	8.2%	11.3%	-	-	-
他人の家に同居	2	2.7%	3.8%	-	-	-
小計	53	72.6%	100%	23	54.8%	100%
不明	20	27.4%		19	45.2%	
計	73	100%		42	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **家族の経済状況**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「市町村民税課税世帯（年収500万円未満）」が12例（52.2%）と最も多く、次いで「生活保護世帯」が4例（17.4%）、「市町村民税非課税世帯」、「年収500万円以上」がそれぞれ3例（13.0%）であった。心中事例では、「市町村民税課税世帯（年収500万円未満）」が5例（35.7%）と最も多く、次いで、「年収500万円以上」が4例（28.6%）「市町村民税非課税世帯」が3例（21.4%）であった。

表4-6 家族の経済状況

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
生活保護世帯	4	5.5%	17.4%	-	-	-
市町村民税非課税世帯	3	4.1%	13.0%	3	7.1%	21.4%
市町村民税課税世帯(均等割のみ課税)	1	1.4%	4.3%	2	4.8%	14.3%
市町村民税課税世帯(年収500万円未満)	12	16.4%	52.2%	5	11.9%	35.7%
年収500万円以上	3	4.1%	13.0%	4	9.5%	28.6%
小計	23	31.5%	100%	14	33.3%	100%
不明	50	68.5%		28	66.7%	
計	73	100%		42	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **本児死亡時に同居していた実母・実父の就業状況**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、実母の就業状況は、「無職」が31例（66.0%）であった。実父の就業状況は、「フルタイム」が23例（76.7%）であった。

心中事例では、実母の就業状況は、「無職」が13例（50.0%）であった。実父の就業状況は、「フルタイム」が21例（87.5%）であった。

表4-7 本児死亡時に同居していた実母・実父の就業状況

区分	心中以外						心中(未遂を含む)					
	実母			実父			実母			実父		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
フルタイム	2	2.7%	4.3%	23	31.5%	76.7%	5	11.9%	19.2%	21	50.0%	87.5%
パート	14	19.2%	29.8%	3	4.1%	10.0%	6	14.3%	23.1%	1	2.4%	4.2%
家事手伝い	-	-	-	-	-	-	2	4.8%	7.7%	-	-	-
無職	31	42.5%	66.0%	4	5.5%	13.3%	13	31.0%	50.0%	2	4.8%	8.3%
小計	47	64.4%	100%	30	41.1%	100%	26	61.9%	100%	24	57.1%	100%
不明	26	35.6%		43	58.9%		16	38.1%		18	42.9%	
計	73	100%		73	100%		42	100%		42	100%	

注) 実父の不明には、離婚等による把握が困難な者等も含む。

構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **死亡した子どもが出生してからの転居回数**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「なし」が26例（57.8%）で半数以上を占め、次いで「1回」が8例（17.8%）であった。心中事例でも、「なし」が11例（73.3%）で半数以上を占め、次いで「1回」が3例（20.0%）であった。

表4-8 死亡した子どもが出生してからの転居回数

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
なし	26	35.6%	57.8%	11	26.2%	73.3%
1回	8	11.0%	17.8%	3	7.1%	20.0%
2回	4	5.5%	8.9%	-	-	-
3回	3	4.1%	6.7%	-	-	-
4回	1	1.4%	2.2%	1	2.4%	6.7%
5回以上	3	4.1%	6.7%	-	-	-
小計	45	61.6%	100%	15	35.7%	100%
不明	28	38.4%		27	64.3%	
計	73	100%		42	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **地域社会との接触**は、有効割合で見ると、心中以外の事例では、「乏しい」が12例（41.4%）、「ほとんどない」が9例（31.0%）、「ふつう」が7例（24.1%）であった。心中事例では、「ふつう」が9例（75.0%）であった。

表4-9 地域社会との接触

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
ほとんどない	9	12.3%	31.0%	-	-	-
乏しい	12	16.4%	41.4%	2	4.8%	16.7%
ふつう	7	9.6%	24.1%	9	21.4%	75.0%
活発	1	1.4%	3.4%	1	2.4%	8.3%
小計	29	39.7%	100%	12	28.6%	100%
不明	44	60.3%		30	71.4%	
計	73	100%		42	100%	

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **養育を支援してくれた人(複数回答)**は、心中以外の事例では、実母の場合、「配偶者」が17例（23.3%）で最も多く、次いで「親」が16例（21.9%）、「行政の相談担当者」が10例（13.7%）、「なし」が9例（12.3%）であった。また、実父の場合は、「配偶者」が10例（13.7%）で最も多く、次いで「親」が7例（9.6%）、「なし」、「配偶者の親」がそれぞれ6例（8.2%）であった。

心中事例では、実母の場合、「配偶者」が10例（23.8%）と最も多く、次いで「親」が9例（21.4%）、「配偶者の親」が6例（14.3%）であった。また、実父の場合は、「配偶者」、「親」、「配偶者の親」がそれぞれ5例（11.9%）であった。

表4-10 養育を支援してくれた人(複数回答)

区分	心中以外(73例)				心中(未遂を含む)(42例)			
	実母		実父		実母		実父	
	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合
なし	9	12.3%	6	8.2%	-	-	-	-
配偶者	17	23.3%	10	13.7%	10	23.8%	5	11.9%
親	16	21.9%	7	9.6%	9	21.4%	5	11.9%
配偶者の親	6	8.2%	6	8.2%	6	14.3%	5	11.9%
虐待者のきょうだい	5	6.8%	2	2.7%	5	11.9%	4	9.5%
配偶者のきょうだい	-	-	-	-	1	2.4%	3	7.1%
近所の人	-	-	-	-	2	4.8%	2	4.8%
職場の友人・知人	-	-	1	1.4%	1	2.4%	-	-
保育所などの職員	6	8.2%	2	2.7%	-	-	-	-
行政の相談担当者	10	13.7%	4	5.5%	1	2.4%	2	4.8%
職場以外の友人	2	2.7%	-	-	-	-	1	2.4%
親類	4	5.5%	2	2.7%	2	4.8%	2	4.8%
不明	31	42.5%	48	65.8%	25	59.5%	28	66.7%

注) 実父の不明には、離婚等による把握が困難な者等も含む。

構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

○ 子育て支援事業の利用(複数回答)は、心中以外の事例では、「なし」が30例(41.1%)と最も多く、次いで「保育所入所」が7例(9.6%)であった。

心中事例では、「なし」が17例(40.5%)、「保育所入所」は5例(11.9%)であった。

表4-11 子育て支援事業の利用(複数回答)

区分	心中以外(73例)		心中(未遂を含む)(42例)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
なし	30	41.1%	17	40.5%
つどいの広場事業	1	1.4%	-	-
地域子育て支援センター事業	1	1.4%	-	-
育児支援家庭訪問事業	-	-	-	-
一時保育事業	4	5.5%	-	-
ショートステイ事業	2	2.7%	-	-
放課後児童健全育成事業	-	-	1	2.4%
保育所入所	7	9.6%	5	11.9%
不明	29	39.7%	19	45.2%

○ 養育者の心理的・精神的問題等(複数回答)は、心中以外の事例では、実母の場合、「育児不安」が19例(26.0%)と最も多く、次いで「養育能力の低さ」が18例(24.7%)、「感情の起伏が激しい」が9例(12.3%)であった。また、実父の場合は、「養育能力の低さ」が7例(9.6%)と最も多く、次いで「攻撃性」が5例(6.8%)であった。

心中事例では、実母の場合、「育児不安」が8例(19.0%)と最も多く、次いで「精神疾患(医師の診断によるもの)」、「うつ状態」がそれぞれ5例(11.9%)であった。

表4-12 養育者の心理的・精神的問題等

i. 心中以外(複数回答)

区分	実母 例数(構成割合/73例)			実父 例数(構成割合/73例)			
	あり	なし	不明	あり	なし	不明	未記入
育児不安	19 (26.0%)	12 (16.4%)	42 (57.5%)	1 (1.4%)	12 (16.4%)	42 (57.5%)	18 (24.7%)
マタニティーブルー	4 (5.5%)	13 (17.8%)	56 (76.7%)				
産後うつ	3 (4.1%)	20 (27.4%)	50 (68.5%)				
知的障害	3 (4.1%)	25 (34.2%)	45 (61.6%)	0 -	21 (28.8%)	34 (46.6%)	18 (24.7%)
精神疾患(医師の診断によるもの)	8 (11.0%)	18 (24.7%)	47 (64.4%)	1 (1.4%)	20 (27.4%)	34 (46.6%)	18 (24.7%)
身体障害	0 -	40 (54.8%)	33 (45.2%)	0 -	23 (31.5%)	32 (43.8%)	18 (24.7%)
その他の障害	1 (1.4%)	29 (39.7%)	43 (58.9%)	0 -	22 (30.1%)	33 (45.2%)	18 (24.7%)
アルコール依存	1 (1.4%)	22 (30.1%)	50 (68.5%)	0 -	14 (19.2%)	41 (56.2%)	18 (24.7%)
薬物依存	0 -	24 (32.9%)	49 (67.1%)	0 -	14 (19.2%)	41 (56.2%)	18 (24.7%)
衝動性	8 (11.0%)	15 (20.5%)	50 (68.5%)	3 (4.1%)	10 (13.7%)	42 (57.5%)	18 (24.7%)
攻撃性	7 (9.6%)	15 (20.5%)	51 (69.9%)	5 (6.8%)	11 (15.1%)	39 (53.4%)	18 (24.7%)
怒りのコントロール不全	8 (11.0%)	13 (17.8%)	52 (71.2%)	4 (5.5%)	11 (15.1%)	40 (54.8%)	18 (24.7%)
うつ状態	8 (11.0%)	15 (20.5%)	50 (68.5%)	0 -	14 (19.2%)	41 (56.2%)	18 (24.7%)
躁状態	2 (2.7%)	20 (27.4%)	51 (69.9%)	0 -	15 (20.5%)	40 (54.8%)	18 (24.7%)
感情の起伏が激しい	9 (12.3%)	16 (21.9%)	48 (65.8%)	2 (2.7%)	13 (17.8%)	40 (54.8%)	18 (24.7%)
高い依存性	3 (4.1%)	17 (23.3%)	53 (72.6%)	2 (2.7%)	12 (16.4%)	41 (56.2%)	18 (24.7%)
幻覚	2 (2.7%)	19 (26.0%)	52 (71.2%)	1 (1.4%)	15 (20.5%)	39 (53.4%)	18 (24.7%)
妄想	1 (1.4%)	20 (27.4%)	52 (71.2%)	1 (1.4%)	15 (20.5%)	39 (53.4%)	18 (24.7%)
DVを受けている	4 (5.5%)	22 (30.1%)	47 (64.4%)	1 (1.4%)	15 (20.5%)	39 (53.4%)	18 (24.7%)
DVを行っている	1 (1.4%)	27 (37.0%)	45 (61.6%)	1 (1.4%)	13 (17.8%)	41 (56.2%)	18 (24.7%)
自殺未遂の既往	1 (1.4%)	18 (24.7%)	54 (74.0%)	0 -	14 (19.2%)	41 (56.2%)	18 (24.7%)
養育能力の低さ	18 (24.7%)	11 (15.1%)	44 (60.3%)	7 (9.6%)	8 (11.0%)	40 (54.8%)	18 (24.7%)

表4-12 養育者の心理的・精神的問題等

ii. 心中(未遂を含む)(複数回答)

区分	実母 例数(構成割合/42例)			実父 例数(構成割合/42例)			
	あり	なし	不明	あり	なし	不明	未記入
育児不安	8 (19.0%)	5 (11.9%)	29 (69.0%)	1 (2.4%)	5 (11.9%)	29 (69.0%)	7 (16.7%)
マタニティーブルー	2 (4.8%)	7 (16.7%)	33 (78.6%)				
産後うつ	1 (2.4%)	8 (19.0%)	33 (78.6%)				
知的障害	1 (2.4%)	14 (33.3%)	27 (64.3%)	0 -	11 (26.2%)	24 (57.1%)	7 (16.7%)
精神疾患(医師の診断によるもの)	5 (11.9%)	8 (19.0%)	29 (69.0%)	0 -	11 (26.2%)	24 (57.1%)	7 (16.7%)
身体障害	0 -	16 (38.1%)	26 (61.9%)	0 -	11 (26.2%)	24 (57.1%)	7 (16.7%)
その他の障害	0 -	12 (28.6%)	30 (71.4%)	0 -	8 (19.0%)	27 (64.3%)	7 (16.7%)
アルコール依存	0 -	10 (23.8%)	32 (76.2%)	0 -	7 (16.7%)	28 (66.7%)	7 (16.7%)
薬物依存	0 -	10 (23.8%)	32 (76.2%)	0 -	7 (16.7%)	28 (66.7%)	7 (16.7%)
衝動性	1 (2.4%)	4 (9.5%)	37 (88.1%)	1 (2.4%)	4 (9.5%)	30 (71.4%)	7 (16.7%)
攻撃性	0 -	5 (11.9%)	37 (88.1%)	0 -	4 (9.5%)	31 (73.8%)	7 (16.7%)
怒りのコントロール不全	0 -	5 (11.9%)	37 (88.1%)	0 -	4 (9.5%)	31 (73.8%)	7 (16.7%)
うつ状態	5 (11.9%)	3 (7.1%)	34 (81.0%)	2 (4.8%)	5 (11.9%)	28 (66.7%)	7 (16.7%)
躁状態	0 -	6 (14.3%)	36 (85.7%)	0 -	5 (11.9%)	30 (71.4%)	7 (16.7%)
感情の起伏が激しい	0 -	5 (11.9%)	37 (88.1%)	0 -	5 (11.9%)	30 (71.4%)	7 (16.7%)
高い依存性	0 -	5 (11.9%)	37 (88.1%)	0 -	4 (9.5%)	31 (73.8%)	7 (16.7%)
幻覚	0 -	4 (9.5%)	38 (90.5%)	0 -	6 (14.3%)	29 (69.0%)	7 (16.7%)
妄想	1 (2.4%)	4 (9.5%)	37 (88.1%)	0 -	6 (14.3%)	29 (69.0%)	7 (16.7%)
DVを受けている	0 -	9 (21.4%)	33 (78.6%)	0 -	8 (19.0%)	27 (64.3%)	7 (16.7%)
DVを行っている	0 -	10 (23.8%)	32 (76.2%)	0 -	8 (19.0%)	27 (64.3%)	7 (16.7%)
自殺未遂の既往	3 (7.1%)	3 (7.1%)	36 (85.7%)	0 -	6 (14.3%)	29 (69.0%)	7 (16.7%)
養育能力の低さ	0 -	9 (21.4%)	33 (78.6%)	0 -	9 (21.4%)	26 (61.9%)	7 (16.7%)

5) 関係機関の対応について

- 児童相談所及び関係機関の関与については、心中以外の事例では、「関係機関との接点があったが、家庭への支援の必要はないと判断していた事例」が22例（30.1%）と最も多く、「関係機関と全く接点を持ちえなかった事例」が13例（17.8%）であった。

心中事例でも、「関係機関との接点があったが、家庭への支援の必要はないと判断していた事例」が21例（50.0%）と最も多く、「関係機関と全く接点を持ちえなかった事例」は4例（9.5%）であった。

表5-1 児童相談所及び関係機関の関与について

区分	平成18年1月から12月				平成19年1月から平成20年3月			
	心中以外		心中(未遂を含む)		心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合	例数	構成割合
児童相談所が関わっていた事例 (虐待以外の養護相談などで関わっていた事例を含む)	12	23.1%	8	16.7%	15	20.5%	2	4.8%
関係機関が虐待やその疑いを認識していたが、児童相談所が関わっていなかった事例	4	7.7%	1	2.1%	6	8.2%	-	-
関係機関との接点があったが、家庭への支援の必要はないと判断していた事例	24	46.2%	34	70.8%	22	30.1%	21	50.0%
関係機関と全く接点を持ちえなかった事例	6	11.5%	3	6.3%	13	17.8%	4	9.5%
不明	6	11.5%	2	4.2%	17	23.3%	15	35.7%

注) 本表における構成割合は、それぞれの例数の合計に対する割合である。

- **虐待通告の有無**は、心中以外の事例では、有効割合で見ると、「あり」が15例（20.5%）であり、うち通告先が児童相談所及び市町村がそれぞれ7例（9.6%）であった。また、「なし」は58例（79.5%）であった。

心中事例では、「あり」の事例はなく、すべての事例が「なし」であった。

表5-2 虐待通告の有無

区分	心中以外		心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	例数	構成割合	有効割合
あり	15	20.5%	-	-	-
内訳(再掲)	児童相談所	7	9.6%	-	-
	市町村	7	9.6%	-	-
	その他	1	1.4%	-	-
なし	58	79.5%	40	95.2%	100%
小計	73	100%	40	95.2%	100%
不明	-	-	2	4.8%	
計	73	100%	42	100%	

- **児童相談所の関与の有無**は、心中以外の事例では、15例（20.5%）で関与があったが、58例（79.5%）で関与はなかった。

心中事例では、2例（4.8%）で関与があったが、9割以上を占める40例（95.2%）で関与はなかった。

表5-3 児童相談所の関与の有無

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
あり	15	20.5%	2	4.8%
なし	58	79.5%	40	95.2%
計	73	100%	42	100%

- **児童相談所の虐待についての認識**は、心中以外の事例では、児童相談所の関与があった15例のうち、「虐待の認識があり、対応していた」のは4例（26.7%）、「虐待の可能性は認識していたが、確定していなかった」のは5例（33.3%）、「虐待の認識はなかった」のは6例（40.0%）であった。

心中事例で、児童相談所の関与があった2例とも「虐待の認識はなかった」であった。

表5-4 児童相談所の虐待についての認識

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
虐待の認識があり、対応していた	4	26.7%	-	-
虐待の可能性は認識していたが、確定していなかった	5	33.3%	-	-
虐待の認識はなかった	6	40.0%	2	100%
計	15	100%	2	100%

- **児童相談所におけるリスク判定の定期的な見直し**は、心中以外の事例では、児童相談所の関与があった15例のうち、11例（73.3%）が行っていなかった。

心中事例では、児童相談所の関与があった2例とも行っていなかった。

表5-5 児童相談所におけるリスク判定の定期的な見直し

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
行った	4	26.7%	-	-
行わなかった	11	73.3%	2	100%
計	15	100%	2	100%

- **児童相談所と子どもとの接触**は、心中以外の事例では、児童相談所の関与があった15例のうち、9例（60.0%）が子どもと接触があり、6例（40.0%）は接触がなかった。

心中事例では、児童相談所の関与があった2例のうち、子どもと接触があり及び接触がなかったがそれぞれ1例ずつであった。

表5-6 児童相談所と子どもとの接触

区分	心中以外		心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	例数	構成割合	
あり	9	60.0%	1	50.0%	
内訳(再掲)	初回面接時のみ	2	13.3%	-	-
	週1回程度	1	6.7%	-	-
	1か月に1回程度	3	20.0%	-	-
	その他	3	20.0%	1	50.0%
なし	6	40.0%	1	50.0%	
計	15	100%	2	100%	

- **児童相談所による最終安全確認の時期**は、心中以外の事例では、有効割合で見ると、児童相談所の関与があった15事例のうち、「死亡前1週間未満」が4例（30.8%）、「死亡前1週間～1か月未満」が3例（23.1%）と、死亡前1か月未満に安全確認されていた例は5割以上であった。

心中事例では、「死亡前半年以上」が1例（50.0%）であった。

表5-7 児童相談所による最終安全確認の時期

区分	心中以外			心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合
死亡前1週間未満	4	26.7%	30.8%	-	-
死亡前1週間～1か月未満	3	20.0%	23.1%	-	-
死亡前1か月～3か月未満	5	33.3%	38.5%	-	-
死亡前半年以上	1	6.7%	7.7%	1	50.0%
小計	13	86.7%	100%	1	50.0%
不明	2	13.3%		1	50.0%
計	15	100%		2	100%

注) 構成割合、有効割合は四捨五入で表示しているため、合計しても100%にならない場合がある。

- **児童相談所とその他の関係機関との連携**は、心中以外の事例では、関係機関同士が関わっていた18例のうち、連携が「よく取れていた」のは2例（11.1%）、「まあまあ取れていた」のは12例（66.7%）、「あまり取れていかなかった」のは3例（16.7%）であった。
 心中事例では、関係機関が関わっていた3例のうち、連携が「まあまあ取れていた」のは2例（66.7%）であった。

表5-8 児童相談所とその他の関係機関との連携

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	例数	構成割合	例数	構成割合
よく取れていた	2	11.1%	-	-
まあまあ取れていた	12	66.7%	2	66.7%
あまり取れていなかった	3	16.7%	-	-
ほとんど取れていなかった	1	5.6%	1	33.3%
計	18	100%	3	100%

- **市町村の関与の有無**については、有効割合で見ると、心中以外の事例では15例（21.7%）、心中事例では1例（2.6%）で関与があった。

表5-9 市町村の関与の有無

区分	心中以外			心中(未遂を含む)		
	例数	構成割合	有効割合	例数	構成割合	有効割合
あり	15	20.5%	21.7%	1	2.4%	2.6%
なし	54	74.0%	78.3%	37	88.1%	97.4%
小計	69	94.5%	100%	38	90.5%	100%
不明	4	5.5%		4	9.5%	
計	73	100%		42	100%	

- 施設入所及び措置解除に関連した死亡事例の子どもの年齢は、心中以外の事例では、1歳及び4歳がそれぞれ1人（25.0%）、3歳が2人（50.0%）であった。

表5-10 施設入所及び措置解除に関連した死亡事例の子どもの年齢

区分	心中以外		心中(未遂を含む)	
	人数	構成割合	人数	構成割合
0歳	-	-	-	-
1歳	1	25.0%	-	-
2歳	-	-	-	-
3歳	2	50.0%	-	-
4歳	1	25.0%	-	-
5歳	-	-	-	-
6歳	-	-	-	-
7歳	-	-	-	-
8歳	-	-	-	-
9歳	-	-	-	-
10歳	-	-	-	-
11歳	-	-	-	-
12歳	-	-	-	-
13歳	-	-	-	-
14歳	-	-	-	-
15歳	-	-	-	-
16歳	-	-	-	-
17歳	-	-	-	-
計	4	100%	-	-

- 児童相談所以外の関係機関の関与は、心中以外の事例では、虐待の認識の有無に関わらず関与状況をみると、「市町村保健センター」が32例（43.8%）と最も多かった。次いで、「医療機関」が20例（27.4%）、「福祉事務所」、「養育機関・教育機関」が13例（17.8%）であった。

心中事例では、虐待の認識の有無に関わらず関与状況をみると、「養育機関・教育機関」が14例（33.3%）と最も多く、これは子どもの年齢が高く、多くが保育所や学校に所属していたことを示している。次いで「保健所」、「市町村保健センター」が13例（31.0%）であった。

表5-11 児童相談所以外の関係機関の関与

区分	心中以外 上段:例数 下段:構成割合 / 73例					心中(未遂を含む) 上段:例数 下段:構成割合 / 42例				
	関与なし	関与あり		不明	未記入	関与なし	関与あり		不明	未記入
		虐待の認識なし	虐待の認識あり				虐待の認識なし	虐待の認識あり		
福祉事務所	48	9	4	12	0	28	1	0	13	0
	65.8%	12.3%	5.5%	16.4%	0%	66.7%	2.4%	0.0%	31.0%	0%
家庭児童相談所	52	8	4	9	0	31	1	0	10	0
	71.2%	11.0%	5.5%	12.3%	0%	73.8%	2.4%	0.0%	23.8%	0%
児童委員	50	0	4	19	0	23	0	0	19	0
	68.5%	0.0%	5.5%	26.0%	0%	54.8%	0.0%	0.0%	45.2%	0%
保健所	52	5	3	13	0	15	13	0	14	0
	71.2%	6.8%	4.1%	17.8%	0%	35.7%	31.0%	0.0%	33.3%	0%
市町村保健センター	28	25	7	13	0	15	13	0	14	0
	38.4%	34.2%	9.6%	17.8%	0%	35.7%	31.0%	0.0%	33.3%	0%
養育機関・教育機関	52	9	4	8	0	18	14	0	10	0
	71.2%	12.3%	5.5%	11.0%	0%	42.9%	33.3%	0.0%	23.8%	0%
医療機関	32	14	6	21	0	12	7	0	23	0
	43.8%	19.2%	8.2%	28.8%	0%	28.6%	16.7%	0.0%	54.8%	0%
助産師	50	1	0	22	0	19	1	0	22	0
	68.5%	1.4%	0.0%	30.1%	0%	45.2%	2.4%	0.0%	52.4%	0%
警察	50	4	3	16	0	22	0	0	20	0
	68.5%	5.5%	4.1%	21.9%	0%	52.4%	0.0%	0.0%	47.6%	0%

注) この表中の「関与」については、都道府県の判断により提出された回答による。したがって、当該機関が子ども又は当該子どもの属する家庭の構成員について職務上何らかのかかわりがあった場合も含まれるものであり、虐待としての対応に限られるものではない。